

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人岡山大学

1 全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」の理念を高く掲げ、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」という目的を定めている。第3期中期目標期間においては、世界のリーディング大学に伍して、徹底したガバナンス改革の下、国際社会や地域と連携した教育、異分野融合科学や医療等を中心とした研究、並びに社会貢献の全ての分野で、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、グローバル・エンゲージメント・オフィスの設置によるグローバル・エンゲージメント戦略の推進等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- グローバル・ディスカバリー・プログラムについて、在学生の実情とその課題を踏まえ、卒業要件単位の見直し（弾力化）を決定していることに加え、令和3年度以降入学者に向けた学生のニーズに合わせた授業内容や単位数等カリキュラム全般の改革を実施している。（ユニット「世界で活躍できる「実践人」の育成」に関する取組）
- グローバル人材育成院において、地球憲章国際本部と包括連携協定を締結し、地球憲章の教育理念に基づいた質の高い教育の導入に向け、ターゲットとなる分野のオンライン教育プログラムへの学生参加を開始している。（ユニット「世界で活躍できる「実践人」の育成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ グローバル・エンゲージメント戦略の推進

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた「SDGs大学経営」のグローバル・エンゲージメントにかかる中核的組織として、岡山大学グローバル・エンゲージメント・オフィス（OUGEO）を設置している。本オフィスで高度専門マネジメント人材を組織化したことで、国連機関との直接的連携による「ESD for 2030」の推進や国連貿易開発会議・米 국무省との直接的連携による教育の高度化等の成果を発信し、大学のプレゼンスを高め、THEインパクトランキングが有意に上昇している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開等や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 学生を活用したノーコードアプリによる情報発信

学生目線での学生向け情報発信を行うため、安価で短期間に開発が可能なノーコードアプリを使った国立大学では初めてとなる大学公認のアプリ「岡山大学メディア (OTD)」を学生起業家でSDGsアンバサダーの理学部4回生（2020キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で経済産業大臣賞受賞）が開発している。本アプリでは、部活動紹介やキャンパス周辺の飲食店紹介など学生目線での情報を取り入れ、現役学生の交流の場として、また入学希望者に向けた魅力発信の場として活用することで、岡山大学のブランディングを目指しており、導入から2週間で4万件のアクセスを獲得している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 「サイバーフィジカル情報応用研究コア」の設立

これまで各部門で潜在的に行われてきたAI・データサイエンスの応用研究について、研究の効率化と質の向上を図るため、全学横断の組織として「サイバーフィジカル情報応用研究コア」を設立している。異分野融合型のAI・データサイエンスの共同研究を促進するため、研究資金を補助する「Society5.0研究支援プログラム」を実施するなど組織間連携の要として、Society5.0の実現に向けた全学体制の構築を推進しているほか、AI・データサイエンス分野における社会実装を通じた地域貢献として、「おかやまAI・セキュアIoT共創コンソーシアム (OASIS)」や「おかやまIoT・AI・セキュリティ講座」と連携した共同研究や人材育成等を行っている。

共同利用・共同研究拠点

○ 分析機器の自動化・遠隔化の推進

惑星物質研究所では、新型コロナウイルス感染症拡大により研究活動に支障が生じた研究者・学生を支援するため、技術職員1名を新規で採用し、実験・分析の代行による共同研究の実施、分析機器の自動化・遠隔化等を進めている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ AIを用いた新型コロナ肺炎の画像診断システムの有用性を検討する研究開始

AIを用いて胸部X線画像から新型コロナ肺炎を検出するシステムを開発し、本システムで通常のX線撮影画像の読影を補助することで、専門医・非専門医問わず新型コロナ肺炎検出を容易にするなど、COVID-19検査(トリアージ)体制の拡充に貢献することが期待されるものであり、令和4年度の実用化に向けて取り組んでいる。

(診療面)

○ 「渡航ワクチン外来」を開設

総合内科・総合診療科において、渡航ワクチン外来を9月に開設し、海外渡航中の安全と健康を確保するために、破傷風等の予防接種、マラリア予防対策、旅程中に予測されるトラブル(時差ボケ、エコノミークラス症候群)等の対策について指導している。

○ 「コロナ・アフターケア外来」を開設

総合内科・総合診療科において、コロナ・アフターケア外来を令和3年2月より開設している。新型コロナウイルス感染症の後遺症に悩む患者さんに対して、診療方針の決定とマネジメントを総合的に行い、地域の医療機関とも連携して診療を行っている。大学病院ならではの専門的な検査を行うとともに、他の専門診療科と連携を図りながら、診療体制の整った環境で体系的に診断・治療を行っている。

(運営面)

○ 岡山新型コロナウイルス対応者会議の開催

新型コロナウイルス感染症の岡山市内における感染拡大に対応するため、4月に「岡山市内急性期7病院新型コロナウイルス対策協議会」（9月から「岡山新型コロナウイルス対応者会議」に名称変更し、圏域を県内に拡大）を立ち上げ、詳細な情報共有を行うことで他の急性期病院等との連携強化を図るとともに、「新型コロナウイルス感染症患者が宿泊施設で療養を行う場合の健康管理業務委託契約」を岡山県と締結し、ホテル療養している患者の健康管理をオンラインで行っている。